

えがお大東っ子 第47号

大東市のホームページでも「えがお大東っ子」をご覧ください。

<http://www.city.daito.lg.jp/kakukakaranoosirase/gakoukyoiku/kyouikukenkyu/egaodaitoukko/>

「一だいつう教育ビジョン2019」理解・活用研修

～教員の確かな関わりによる「学び合う」学校園づくり～

大東市では、今年4月に、市内の全教職員へ「だいつう教育ビジョン2019」の冊子を配付しました（詳細は令和元年5月30日発行/第45号に掲載しています）。

そして、本冊子の理解・活用を共通理解するために各校で研修会を実施しました。

各校での研修会では、平成26年度に策定した「大東教育ビジョン後期基本計画」の課題と成果を確認するとともに、大東市立小学校元校長 近重 修 先生と、大東市立中学校元校長 西岡 斉 先生に「学び合う」授業づくりの根幹についてお話ししていただき、全教職員で再度「今求められる授業づくり」を見直す機会となりました。



さらに、8月2日（金）に開催した大東市教育研究フォーラムの第二部でも、「だいつう教育ビジョン2019」の冊子を活用した研修会を実施しました。この場でも、教員が子ども一人ひとりの学習意欲を引き出すための授業改善を思考し、グループ協議ではさまざまな意見交流が行われていました。



学校（園）の枠を越えた教員どうしの交流がとて活発に行われていたことが印象的でした。

すでに幼稚園教育要領は実施されており、来年度より小学校新学習指導要領が、再来年度には中学校新学習指導要領が全面実施されます。

あらためて、大東市の基本理念である「学び合い、学び続ける明日の市民の育成」を不変のものと捉えるとともに、これからの予測が困難な変化の激しい社会の中で生きていく子どもたちのために、日々の授業・保育づくりに懸命に取り組んでまいります。

新学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、子どもたちが自分の力で課題を探究したり、解決したりする授業をめざします。学習参観等でも、子どもたちが主体的に他者とかかわり、資料や友だち等との対話をとおして考えを広げたり深めたりする姿が見られます。



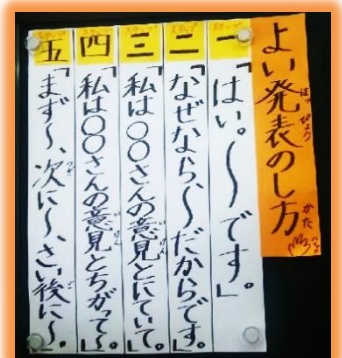


大東市の支援教育～伝え方を学ぶ～

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことが明記されています。大東市ではこの視点を取り入れた「学び合う」授業づくりに10年前から取り組んでいます。

例えば、授業ではペアやグループでの話し合い活動を取り入れることがあり、この活動は「学び合い」の姿勢を育むとともに「人の話をしっかりきく」「自分の考えをみんなに伝える」などコミュニケーション力を高めることにもつながります。

ただ「自分の思いや考えをみんなに伝える」ことに苦手意識を持っている子どももいます。そこで、どの程度の大きさの声で、どのように伝えると伝わりやすいか、「伝え方」のヒントとなる視覚的にわかりやすい掲示物（右の写真「こえのものさし」や「よい発表の仕方」）を教室に貼っている学級もあります。



「伝え方」を学ぶとともに、「安心して伝えることができる」、つまり「お互いを認め合う」集団づくりも大切にしています。

また、「伝え方」は子どもだけでなく教員も研修等を通して学んでいます。

例えば、授業等での指示の出し方を工夫しています。「1回の指示で伝えることは1つにする」、「あいまいな表現をできるだけ避け具体的な表現に置き換える」などです。『ちゃんと聞く』→『相手の顔を見て聞く』、『さっさとする』→『タイマーが0になるまでにする』など、無意識に出てしまいがちな表現を見直しています。

また、子どもが失敗をしたとき、うまくいかなかったとき、みなさんはどんな声かけをしていますか？『何でできないの!』『あ～あ…!』とついつい口にしてしまい…ということがあるかもしれません。そういった声かけが続くと、子ども自身は『やってもどうせできない』と自尊心の低下につながります。『頑張って〇〇したことがうれしいな』『次は〇〇したらきっとうまくいくよ!』など、頑張ったかどうかの過程を見る。失敗しても頑張ったことをしっかりほめる。そのような「声かけ＝伝え方」で、子ども自身の失敗の受けとめ方、次への行動も変わってくるかもしれません。

教員も周囲の大人もプラスの「声かけ」を心がけたいですね。

「こども会活動の紹介」～楽しいこといっぱい！～

大東市には、市内こども会の交流・発展を目的とした「大東市こども会育成連絡協議会」、略して「市こ連」があります。市こ連では各地域こども会対抗のソフトボール大会や駅伝大会、ドッジボール大会といったスポーツ事業から、ポスター・かべ新聞等を展示・表彰するフェスティバル、作文コンクールといった文化事業に加え、5年生になったら野外活動センターで、ジュニアリーダー育成のためのキャンプなど、盛りだくさんの事業を実施しています。

いろいろなイベントに参加することで、校区や年代を超えた友だちや大人との出会いがあります。協調性やリーダーシップを育み子どもの成長に必要な多くの気づきや発見が必ずあります。いつでも皆さんの参加を受け付けていますので、気軽に声をかけてください。



Let's try!



大東市ふるさとクイズ

参加する小学校では、3年生を対象に3学期に実施を予定している「ふるさとジュニア検定」からの問題です。3つの中から答えを選んでください。

- (1) 大東市の人口は、約何人でしょう。
①約3万人 ②約12万人 ③約100万人
- (2) 大東市は、東西と南北、どちらの方が長いでしょう。
①東西が長い ②南北が長い ③ほとんど同じ長さ
- (3) 大東市の土地の使われ方で、一番多いのは何でしょう。
①住宅地 ②山林 ③工場
- (4) 大東市に、昔から道ぞいに立っている「とうろう」は、何という名前でしょう。
①おかげどうろう ②ありがとうどうろう ③道しるべどうろう
- (5) 戦国時代、飯盛山の山頂につくられた飯盛城の城主で、市役所の前にも像が建てられた戦国武将はだれでしょう。
①楠木 正行 (くすのき まさつら) ②三好 長慶 (みよし ながよし)
③織田 信長 (おだ のぶなが)



…正解は、次のページ！



11月は「こころの再生」府民運動推進月間です！

「こころの再生」府民運動では、府民一人ひとりが「生命（いのち）を大切にする」「思いやる」「感謝する」「努力する」「ルールやマナーを守る」など、時代や社会がどのように変化しても決して忘れてはならない大切な『5つのこころ』を見つめ直し、「あいさつする」など身近な取組みを実践することを呼びかけています。

皆さんも、「5つのこころ」「あいさつ」を意識して、アクションを起こしてみませんか！

また、11月2日（土）、4日（月・振）に万博記念公園において『「こころの再生」府民運動 in ロハスフェスタ万博』が開催されます。子どもたちが楽しめるようなブース出展もあります。



大阪「こころの再生」府民運動
～大阪あったかプロジェクト～

大切にしたい「5つのこころ」

1. 生命（いのち）を大切にする
2. 思いやる
3. 感謝する
4. 努力する
5. ルールやマナーを守る



■「こころの再生」府民運動 <http://kokoro-saisei.jp/>

Facebook [はこちら](#)



第14回大東市小中学生 弁論大会のご案内

- 日時：令和元年11月8日（金）午後2時 開会
 場所：サーティホール（大ホール）
 内容：テーマ「心をことばに～伝えたい気持ち～」
 小学校6年生・中学生 10名による弁論
 小学校5年生 12名による1分間スピーチ
 小学校4年生 12名の作文展示



小学校6年生 1,063名、中学生 2,438名の中から選ばれた10名による「弁論」と、小学校5年生 12名による「1分間スピーチ“わたしの学校紹介”」の発表です。また、今年度より小学校4年生 12名の作文展示による発表もごさいます。家庭、地域、学校での「人との出会い」の中で、また「社会の出来事」の中で、小・中学生が心に感じた素直な気持ちをことばにして伝えます。さわやかな、そして心揺さぶる小・中学生の熱弁にご期待ください。

ふるさとクイズの答え…(1)② (2)① (3)① (4)① (5)②